

健康住宅の基本。住宅の資産価値の基本は“床下”にあり!

大切な住宅の資産価値を維持するのは“床下強制換気「ACCET FAN」!



防腐・防カビ効果の弱い“ノンホル”建材住宅、いわゆる“エコ住宅”は、ダニ・カビ・シロアリ・キクイムシなどの家屋害虫や腐朽菌にとっても健康エコ住宅なのです。

日本特有の気候は、床下の結露を防ぐことは出来ません。

結露した水分は、床下の木材が吸収し、含水率を悪化(上昇)させ、カビ・シロアリなどが繁殖しやすい環境をつくります。

さらに、床下木部の含水率が悪化(上昇)することで、木部の強度も悪化(低下)し「住宅の資産価値」が下がります。

表紙の質問はいかがだったでしょうか?
実はひとつでも該当したら…
それは住まいの**危険信号**です!

室内の湿気は結露として確認でき、自ら対処しやすいのですが、床下についてはどうでしょう?近頃の住宅は低床下で区画も複雑。つまり、湿気の確認もしにくい上、床下換気が不十分な構造をもつことが多いのです。これを放置すれば住宅材の腐食やカビ発生の原因や、白アリなどの害虫の繁殖はもちろん、さらに、押し入れ内部や畳・絨毯にダニやカビの繁殖など、家族が健康な生活において直接の悪影響を与えます。これらの問題の解決には、床下の湿気を強制的に追い出すことが最も確実な方法で、かつ重要なポイントなのです。

湿気や結露が起こす影響とは…

強制換気システムを使用せず、自然換気のみ依存していると、床下に湿気が溜まりやすく、結露の発生や、床下に腐朽菌の棲息しやすい環境となり、大切な住宅価値が低下します。



さらに、ダニやカビ・シロアリなど家屋害虫の被害にもつながり、人の健康を損なうことにもなります。



シロアリ

強制換気をすることで、自然換気では対処が難しいことも解決してくれます。

■結露のメカニズム

【例】	温度	湿度	【例】	温度	湿度
夏期型結露	外気 30.0(°C)	60(%)	冬期型結露	室内 15.0(°C)	60(%)
	床下 21.4(°C)	100(%)		室温 7.3(°C)	100(%)
	温度差 8.6(°C)			温度差 7.7(°C)	

外気温30℃・湿度60%の場合、直射日光の当たらない床下などは、温度21.4℃(気温差わずか8.6℃)で結露します。

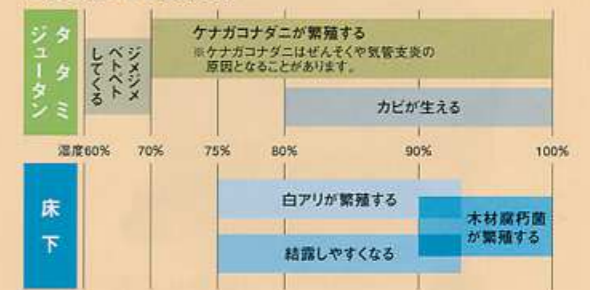
暖房した温度15℃・湿度60%と暖房していない居室・屋根裏・床下・押し入れなどは、温度が7.3℃(気温差7.7℃)で結露します。



■家屋害虫・カビ等の予防

ジュータン・押し入れなどの湿気を少なくし、カビ・ダニを抑え、アトピーなどのアレルギー予防に役立ちます。地盤に問題がない場合でも、床下の結露は外気や室内との温度差で発生します。

温度変化による状況変化



設置例

床下換気・通常換気口

- *アセットファン 排気・給気型
- *アセットファン 攪拌型(据置タイプ)

攪拌ファンとの組み合わせにより、床下に引き込んだ外気を床下のデッドスペースに効率的に攪拌送風し、木部の含水率を下げ、結露や腐朽を防ぐため住宅の耐久性を高めます。



雨の日でも、洗濯物に風を当てると乾くのと同じで、雨天の時でも床下換気扇を運転することは、床下にとって非常に有効です。

■排気みの換気図

ほとんどの住宅に採用されている、強制排気と自然吸気による「第三种換気」には、建築基準法の改正によって、小屋裏や床下への機械強制換気を義務づけているケースがあります。

※これは、小屋裏や床下の空気が居室に流入しないためのもので、

